

笑いを狙う!!

航空自衛隊



松島基地

JASDF MATSUSHIMA AIR BASE



松島基地の被災状況 (F-2B)



松島基地の被災状況 (UH-60J)

しかし、次の瞬間から松島基地は滑走路の復旧に当たった。それと同時に、救助活動にも向かった。家族の安否も解らない隊員もいる中、5日後には、救援物資の輸送拠点として「東北地方の防災拠点」としての役割を果たし始めた。

毎年20~30人のF-2 戦闘機乗りを排出していた第21飛行隊は、その飛行教育を休む訳にも行かない。青森県の三沢基地に移動し、三沢移動訓練隊を編成し、第3飛行隊のF-2Bを使用しながら飛行教育を続けた。この年に行われた三沢航空祭で展示されたF-2B、尾翼に書かれた「がんばろう東北」の文字は様々な気持ちを代弁していた。



平成28年3月20日、第21飛行隊は三沢基地から松島基地に修理が完了したF-2B6機と共に戻ってきた。その帰還記念式典で、当時の時藤基地司令は「困難を乗り越え、本日を持って松島基地は復興する」と式辞を述べ、先に戻っていた第11飛行隊のブルーインパルスによる祝賀飛行も行われた。そして何よりも基地周辺に集まって来た多くの人たちの熱い歓声に出迎えられていた。



第11飛行隊のT-4 ブルーインパルスは、航空自衛隊の広報活動が主任務であり、各地で展示飛行を行い、幅広いファンを魅了し続けている。東日本大震災の際には、九州新幹線全線開通記念行事で展示飛行を行う予定で九州にいた。しかし当然、記念行事は中止され、展示飛行も行われなかった。ブルーインパルスのクルーたちは機体を芦屋基地に残し、震災から3日後にクルーは松島基地へ戻り復旧作業に従事していた。その後しばらくは、クルーが芦屋基地へ「移動訓練」をするため出向いていたが、7月に行われた北海道の千歳航空祭では展示飛行を行った。震災から2年後の平成25年3月31日、ブルーインパルスは母基地である松島基地に戻って来た。基地周辺には、帰還を祝うファンたちでごった返していた。

昭和39年、ブルーインパルスは第1航空団(浜松基地)の「特別飛行研究班」に属し、機種はF-86Fを使用していた。日本で初めての曲技飛行を浜松基地開庁祭で行ってから6年後のこの年、東京オリンピック開会式で会場上空にオリンピックマークの五輪を描き、全世界から注目された。それから56年後の令和2年(2020年)、再び東京オリンピックが開催される。また、同年3月20日、ギリシャ・オリンピア遺跡で採火されたオリンピックの聖火が松島基地に到着する。その後、東日本大震災の復興拠点となった福島県のサッカー場「Jヴィレッジ」から聖火リレーは出発し、121日間かけて全47都道府県を周り7月24日、東京の国立競技場で行われる開会式で聖火台に点火される。

まだまだ復興されていない場所も多く残るが、三陸沿岸地域で唯一の空自基地であり、空の防災拠点である松島基地は復興した。そんな松島基地から、ブルーインパルスと聖火が希望と復興を乗せて飛び立って行く。



復興拠点となった「Jヴィレッジ」災害派遣の横断幕をかけた車両が所狭しに…(平成23年5月)



ブルーインパルスの格納庫後方には、空自作成の防潮堤が作られていた。(平成26年当時)



空自作成の簡易防潮堤はこんな感じ



ブルーインパルスの格納庫もかさ上げされた



松島基地司令兼 第4航空団司令
空将補 松尾 洋介

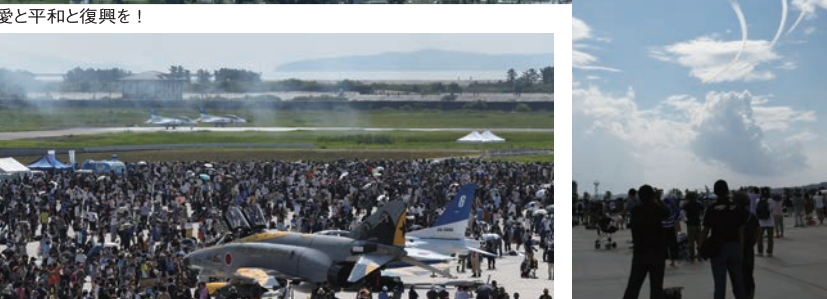
松島基地は常に進化しております。脈々と受け継がれてきた伝統を継承するとともに、「ブレイクスル」の精神で新しいことに挑戦し、明るく活気のある松島基地に、皆様見学に来て下さい。心からお待ちしております。同時に、地域コミュニティと共に発展を目指す当基地の応援もよろしくお願いします。

宮城県東松島市に位置する松島基地は、平成23年の東日本大震災で大きな被害を受けましたが、隊員の努力と国民の皆様の協力により復興を果たし、以前にも増して元気で活気のある基地に進化しました。

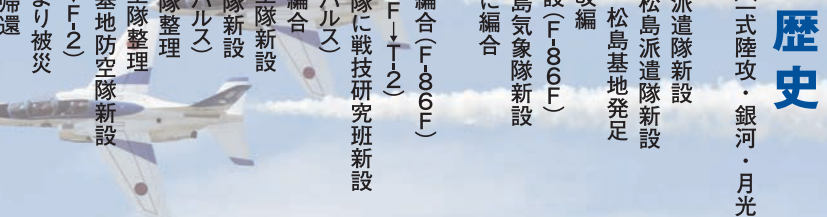
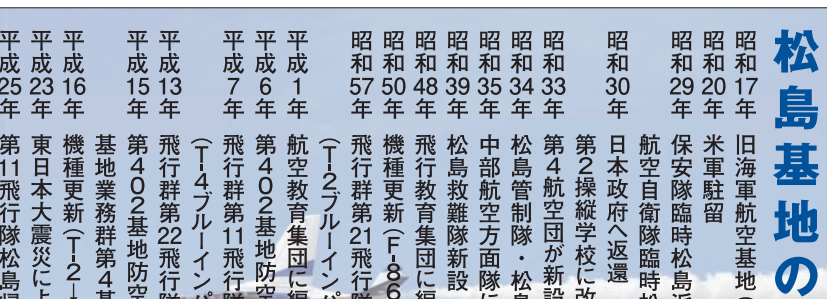
所あり、風光明媚な環境のもと、F-2戦闘機の操縦者を育成するため、日々飛行訓練を行っています。また東北太平洋側で唯一の展示飛行により、全国各地で広報活動を実施しております。特に今年9月に行われるラグビー・ワールドカップでの展示飛行が注目されています。他にも東京オリンピック・パラリンピックの聖火が日本で最初に到着することも決定し、基地所在全隊員が一丸となり、本行事の成功に向けて取り組んでおります。

2019航空祭

「松島基地航空祭2019」が8月25日行われ、約56,000人が訪れた。各地の航空祭で展示飛行を行うブルーインパルスだが、松島基地でだけは、本拠地だからその1日2回の飛行を行う。「飛行機(F-2)の音にびっくりしました。カッコいい!」と9歳の女の子。など、それぞれの楽しみ方で満喫していた。



大混雑の基地内 この日は3機で展示飛行



松島基地の歴史

松島基地所在部隊

第4航空団

飛行群第21飛行隊
教育集団隷下の戦闘機操縦教育を行うところ。F-2戦闘機の最後の難関であり故郷でもある。

飛行群第11飛行隊
泣く子も黙るブルーインパルスの母基地。空自広報の最前線。

整備補給群
航空機、車両等さらに諸器材の点検、整備、燃料、弾薬、補給物品等、飛行運用の直接支援を行う。検査隊・整備隊・修理隊・車両器材隊・補給隊を持つ。

基地業務群
基地業務全てを担う。第4基地防空隊・飛行場勤務隊・施設隊・通信隊・管理隊・業務隊・会計隊・衛生隊を持つ。

松島救難隊
「他を生きかすために」をモットーに命をかけて、航空機搭乗員の救助、遭難者の救出や急病人の搬送などを行う。

松島管制隊
航空機の交通整理や飛行場の離着陸の誘導を行う。管制官がいないと航空機は飛ぶことができない。

松島気象隊
24時間態勢で最新の気象情報を航空機などに提供。戦闘機等が飛行する前には、その飛行ルートの気象予報ブリーフィングを行う。

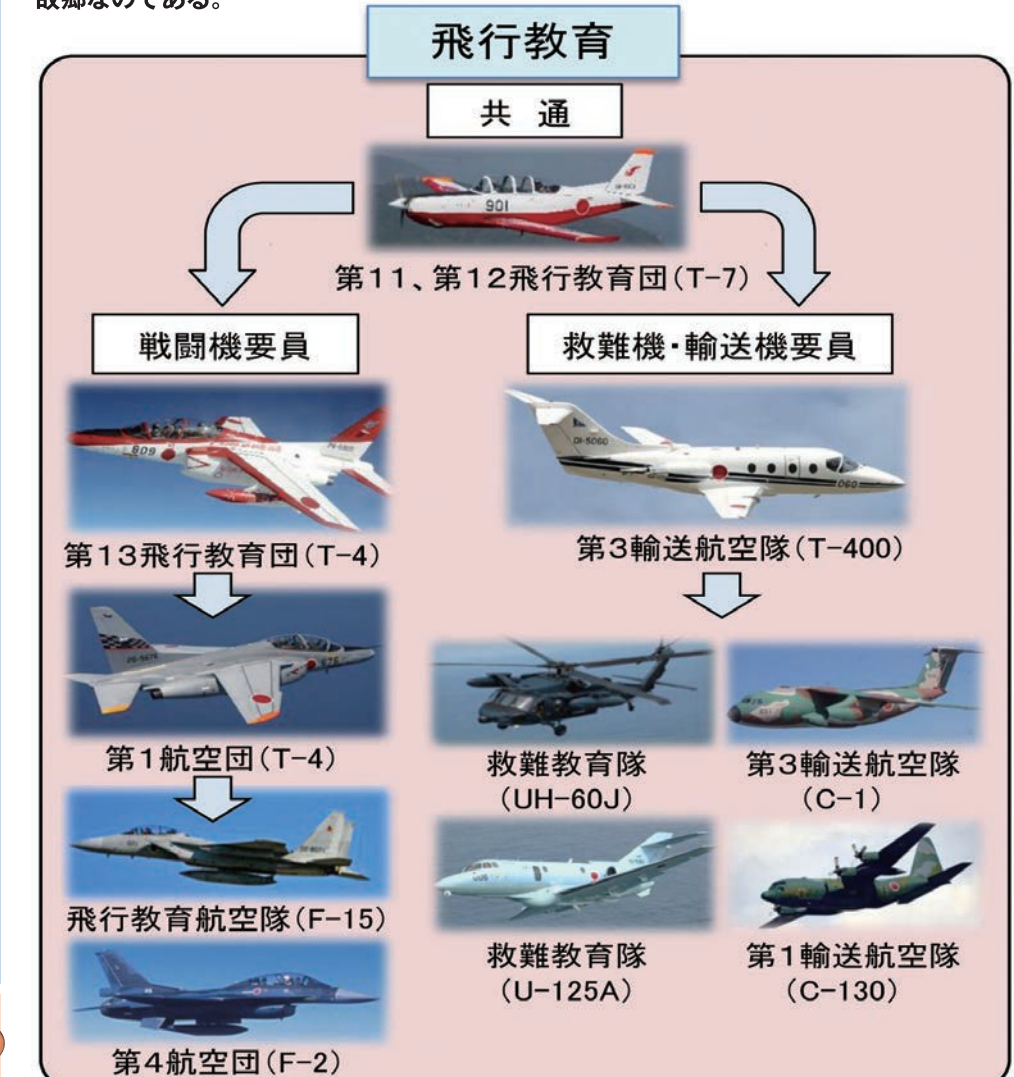
松島地方警務隊
基地内のおまわりさん。技術と体力を駆使し基地を守る。不審物の探し方などは、プロフェッショナル! 探し方? それは内緒。

松島基地空上げ4種
レシピはホームページを見てね!



「松島基地」とは、宮城県東松島市にある航空教育集団隷下の第4航空団・航空総隊隷下の松島救難隊(航空救難団)・航空支援集団隷下の松島管制隊(航空保安管制群)及び松島気象隊(航空気象群)・防衛大臣直轄部隊の松島地方警務隊(航空警務隊)が所在している基地である。

第4航空団の飛行群には、第21飛行隊と第11飛行隊があり、第21飛行隊は、戦闘機訓練の最終課程である「F-2Bによる学生教育」を行っている。この「戦闘機操縦課程」を卒業しないとF-2戦闘機のパイロットにはなれない最後の難関でもあり、F-2戦闘機乗りの故郷なのである。



「松島基地」と聞いて、津波による海水に浸かったF-2B戦闘機を思い出す人もいるだろう。東日本大震災の地震発生から1時間8分後、松島基地は津波に襲われ、F-2B戦闘機18機、T-4練習機4機(うち1機はブルーインパルス)、U-125A救難捜索機2機、UH-60J救難ヘリコプター4機が水に浸かった。